

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7595	大正2年	夏の部	梅若葉斯人在焉と又思ふ	若葉	植物
7596	大正2年	夏の部	心相許す新樹の風の前(全縣青年大会)	新樹	植物
7598	大正2年	夏の部	梅黄ばむも待たざりし才を抱く君	梅の實	植物
7600	大正2年	夏の部	山の雄河の大幟立つところ	幟	人事
7604	大正2年	夏の部	家々祭る天神柿の青きにも	青柿	植物
7606	大正2年	夏の部	庭前を江湖に夏書すゝみけり	夏書	人事
7607	大正2年	夏の部	朴鳴りに清水得つ日を仰ぐ山	清水	地理
7608	大正2年	夏の部	焚火跡を山五月雨の漂はす	五月雨	天文
7609	大正2年	夏の部	館の跡見て藻の花の裏沼へ	藻の花	植物
7610	大正2年	夏の部	館の跡見巡りしつかれ更衣	更衣	人事
7611	大正2年	夏の部	さみだるゝ小家河童の宿にもや	五月雨	天文
7612	大正2年	夏の部	雲低し蓴舟と遠く見てすぎぬ	蓴菜	植物
7613	大正2年	夏の部	川狩の友まつ間登山の詩を作る	川狩	人事
7614	大正2年	夏の部	明日にせまる來遊の事風かほる	薰風	天文
7617	大正2年	夏の部	黄帷子着たり靈異記の一節を眼に	帷子	人事
7621	大正2年	夏の部	轉眼睛即ち萩たり桔梗たり	雑	雑
7623	大正2年	夏の部	水力の事語り尽く蟬の声	蟬	動物
7624	大正2年	夏の部	黙すれば涼し汝と枝蛙	涼し	時候
7625	大正2年	夏の部	瀧をうしろ炭やきと百合に問答す	滝	地理
7627	大正2年	夏の部	山鳥の羽搏を横に百合山路	百合	植物
7628	大正2年	夏の部	奥へ/\蹄の跡を百合も見て	百合	植物
7629	大正2年	夏の部	滝の景を大きく説きつ山百合も	百合	植物
7630	大正2年	夏の部	百合の風人まつ心とぞなりぬ	百合	植物
7631	大正2年	夏の部	百合の句案明日又越えん山の事	百合	植物
7731	大正3年	夏の部	螢追へば螢追ふらしき人見えつ	螢	動物
7732	大正3年	夏の部	手親ら蚊やりして仰ぐ門大樹	蚊遣	人事
7733	大正3年	夏の部	彗星出るあたり見て涼しと思ふ	涼し	時候
7734	大正3年	夏の部	打水に花ほのかはゝき星出でむ	打水	人事
7735	大正3年	夏の部	青田ほとり碑の裏の文字名残よむ	青田	地理
7737	大正3年	夏の部	松を出て涼し竹に入る尚すゞし	涼し	時候
7738	大正3年	夏の部	虫干の綺羅を目に樹間飛ぶ雀	蟲干	人事
7792	大正4年	夏の部	梅雨雲に翔りて深山鳥の來る	梅雨雲	天文
7795	大正4年	夏の部	夜学用の薪朽ちたり桐の花	桐の花	植物
7796	大正4年	夏の部	百合咲くや水浴ひし馬の蹄鳴り	百合	植物
7944	大正5年	夏の部	餘花一樹山中の地氣もゆる也	餘花	植物
7945	大正5年	夏の部	若葉照りに干割るゝ薪山成せり	若葉	植物
7946	大正5年	夏の部	舟峽を上り螢に泊てにけり	螢	動物
7947	大正5年	夏の部	漁區の禁解けしに客や夏霞	夏霞	天文
7948	大正5年	夏の部	白雲青山幟立つ日かな	幟	人事
7949	大正5年	夏の部	杉深く我足跡に滴りぬ	滴り	地理
7950	大正5年	夏の部	毛虫ハ皆蓴麻に付けと思ふ	毛蟲	動物
7951	大正5年	夏の部	登臨の帽子吹かるゝ若葉哉	若葉	植物
7952	大正5年	夏の部	老鶯や人ハ泉に歩みよる	老鶯	動物
7953	大正5年	夏の部	獨力に岨道成りぬ青芒	青芒	植物
7954	大正5年	夏の部	初蟬や栽ゑし樹またく根づきたり	蟬	動物
7956	大正5年	夏の部	水草の尚生ひまさる五月雲	梅雨雲	天文
7957	大正5年	夏の部	よしのびて鳥來る朝や水の色	葦若葉	植物
7959	大正5年	夏の部	芍薬も見ず鶏のあはただし	芍薬	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7960	大正5年	夏の部	短夜の戸に物の苗くれに来る	短夜	時候
7961	大正5年	夏の部	鳴神の夜の間に芭蕉ほぐれたり	雷	天文
7963	大正5年	夏の部	夏の露と答ふるすべも知らざりき	夏の露	天文
7965	大正5年	夏の部	花菖蒲の笑むなべに汝が顔を見る	花菖蒲	植物
7966	大正5年	夏の部	青梅を見るや詩作の思立ち	梅の實	植物
7967	大正5年	夏の部	暑き日のたゞ中を燕閃きぬ	暑さ	時候
7968	大正5年	夏の部	六月の樹々の光に歩むかな	六月	時候
7969	大正5年	夏の部	青嵐の餘氣屢す讀書樓	青嵐	天文
7970	大正5年	夏の部	五月雨に籠り薬を點検す	五月雨	天文
7971	大正5年	夏の部	雲の峰を見る放參の法師原	雲の峰	天文
7972	大正5年	夏の部	眞清水に浸す我魚籃の魚光る	清水	地理
7973	大正5年	夏の部	夕立雲迫るに釣場守るかな	夕立	天文
7974	大正5年	夏の部	火を遁れて潜む毒蛾の明易き	短夜	時候
7975	大正5年	夏の部	早起瓜もぎに行けバ瓜の花	瓜の花	植物
7976	大正5年	夏の部	紫陽花に追へども去らぬ睡魔哉	紫陽花	植物
7977	大正5年	夏の部	清水溢れて大川に注ぐ也	清水	地理
7978	大正5年	夏の部	隣家の南瓜蔓垣を越來る	南瓜の花	植物
7979	大正5年	夏の部	蝉高樹吾兒あまりに小さき哉	蝉	動物
7980	大正5年	夏の部	潮引くが如炎天の暮にけり	炎天	天文
7981	大正5年	夏の部	水飯に水の出處の石を想ふ	水飯	人事
7984	大正5年	夏の部	打水に大地息づく木立かな	打水	人事
7985	大正5年	夏の部	柳低く早の土にしだれけり	早	天文
7986	大正5年	夏の部	照り砂に人の汗零つ胡麻の花	胡麻の花	植物
7987	大正5年	夏の部	わが一人行水了へつ秋隣	秋近し	時候
7988	大正5年	夏の部	雨を欲する人群がりぬ暮の星	旱	天文
8105	大正6年	夏の部	喬木の都となりぬ鯉幟	鯉幟	人事
8109	大正6年	夏の部	うの花の寒きが中に獨在らむ	卯の花	植物
8111	大正6年	夏の部	樹ハ喬木となりにけり更衣	更衣	人事
8112	大正6年	夏の部	短夜や靄の中なる川明り	短夜	時候
8113	大正6年	夏の部	五月雲過ぐる山又山の勢り	梅雨雲	天文
8114	大正6年	夏の部	新樹風あり書齋整頓す	新樹	植物
8115	大正6年	夏の部	一束の花苗土間の梅雨寒に	梅雨寒	時候
8116	大正6年	夏の部	桑の實や徑曲れば明るき野	桑の實	植物
8118	大正6年	夏の部	遠方の追悼會我に杜宇	時鳥	動物
8120	大正6年	夏の部	如意一揮青梅故の如く也	梅の實	植物
8123	大正6年	夏の部	蛸の中に皆目覚め居り水の音	蚊帳	人事
8124	大正6年	夏の部	蝉の聲水の音人々の耳	蝉	動物
8125	大正6年	夏の部	書中句々皆我を責む雲の峰	雲の峰	天文
8126	大正6年	夏の部	夕蟬に水明り舟岸につく	蟬	動物
8128	大正6年	夏の部	橋渡る人の顔や夏の月	夏の月	天文
8130	大正6年	夏の部	鳥人の踵をかへす雲涼し	涼し	時候
8131	大正6年	夏の部	露涼しく今朝又一花開きけり	夏の露	天文
8132	大正6年	夏の部	前栽に灌水水足る涼しさよ	涼し	時候
8133	大正6年	夏の部	石の為めに湛へ流るゝ清水哉	清水	地理
8134	大正6年	夏の部	草刈の日裏に刈るやきりたす	草刈	人事
8136	大正6年	夏の部	愛著の焰の外の夏花かな	夏花	人事
10512	大正6年	夏の部	竹揺れて湖も見えけり夕納涼	夕涼	天文
10658	大正6年	夏の部	竹揺れて湖も見えけり夕涼み	夕涼	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8274	大正7年	夏の部	脈々の靈氣相知る樹々若葉	若葉	植物
8275	大正7年	夏の部	家々やおのれ引來て菖蒲葺く	菖蒲葺	人事
8276	大正7年	夏の部	葉櫻や逢はまく思ふ人遠き	葉櫻	植物
8277	大正7年	夏の部	大樹なれば藟々として青嵐	青嵐	天文
8279	大正7年	夏の部	櫻若葉柩に紅き蕊の降る	若葉	植物
8281	大正7年	夏の部	さみだるゝ中やあまりに小さき塚	五月雨	天文
8282	大正7年	夏の部	五月雨の山際あかし夜明かも	五月雨	天文
8283	大正7年	夏の部	五月雨の道の焚火に旅人かな	五月雨	天文
8284	大正7年	夏の部	群木相倚りて五月雨地を流る	五月雨	天文
8285	大正7年	夏の部	さみだれの地に印す馬の蹄かな	五月雨	天文
8286	大正7年	夏の部	山越やさみだるゝ中に餉くふ	五月雨	天文
8287	大正7年	夏の部	牡丹蕊のみこの國のさみたれに	五月雨	天文
8288	大正7年	夏の部	さみだるゝ頃の獸に夜の人	五月雨	天文
8289	大正7年	夏の部	さみだれの髓にやしまむ古芭蕉	五月雨	天文
8290	大正7年	夏の部	五月雨に遠く齎らしぬ花菖蒲	五月雨	天文
8292	大正7年	夏の部	湖の方へ薄暑の車吹かれけり	薄暑	時候
8294	大正7年	夏の部	墓の前に我が立つ葭切も啼かず	行々子	動物
8296	大正7年	夏の部	夏草のかきわくべくもあらぬ哉	夏草	植物
8298	大正7年	夏の部	我が出し山やつゆ雲かゝりゐる	梅雨雲	天文
8299	大正7年	夏の部	深山鳥姿あり / \ とつゆ寒に	梅雨寒	時候
8300	大正7年	夏の部	つゆ雲や波平らかに湖の神	梅雨雲	天文
8301	大正7年	夏の部	つゆ冥し驛樹行人友の如く	梅雨	天文
8302	大正7年	夏の部	梅雨空や矢場の草を等閑に	梅雨空	天文
8304	大正7年	夏の部	朝日子の出づる國也幟竿	幟	人事
8306	大正7年	夏の部	蚤よ蚊よと物思ふ違なかりけり	雑	雑
8308	大正7年	夏の部	頌曰紙魚遊ぶところ亦江山	紙魚	動物
8309	大正7年	夏の部	水饒かに木々吸い剩す涼しさよ	涼し	時候
8310	大正7年	夏の部	葛藟を手繰りをり山人涼し	涼し	時候
8311	大正7年	夏の部	一輪の花日の夕を涼しくす	涼し	時候
8312	大正7年	夏の部	山里ハ美婦の行くさへ涼しかり	涼し	時候
8313	大正7年	夏の部	月の出をまつ人々に山涼し	涼し	時候
8314	大正7年	夏の部	山陰の雷鳴簾吹く涼し	涼し	時候
8315	大正7年	夏の部	涼しさに伸びて夜明の瓜の花	涼し	時候
8316	大正7年	夏の部	心涼し南瓜の花の大なるも	涼し	時候
8317	大正7年	夏の部	打水に得堪へで涼し花細か	涼し	時候
8318	大正7年	夏の部	宿の灯の涼し登山のかしま立	涼し	時候
8319	大正7年	夏の部	かゝる難所を剛力と行く涼し	涼し	時候
8320	大正7年	夏の部	剛力は木石の如く涼しけれ	涼し	時候
8321	大正7年	夏の部	難所涼し剛力も巖石の如	涼し	時候
8322	大正7年	夏の部	祠涼しく初茄子献げたる	涼し	時候
8323	大正7年	夏の部	大川の出水定まる夕涼し	涼し	時候
8324	大正7年	夏の部	郡集に足りて濁らず山清水	清水	地理
8325	大正7年	夏の部	壯校の手々の刃物や山清水	清水	地理
8470	大正8年	夏の部	葩を斂めて牡丹晩に在り	牡丹	植物
8471	大正8年	夏の部	牡丹深沈吾ひとり近寄りぬ	牡丹	植物
8472	大正8年	夏の部	牡丹大方崩れ物の音もなし	牡丹	植物
8473	大正8年	夏の部	庭荒れしがまゝに牡丹ちり尽す	牡丹	植物
8474	大正8年	夏の部	薯山の如し夏野の一家族	夏野	地理

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8475	大正8年	夏の部	藪中に奔馬を避くる夏野哉	夏野	地理
8476	大正8年	夏の部	鑛脈のいづち走れる夏野哉	夏野	地理
8477	大正8年	夏の部	水に生きて人現はれし夏野哉	夏野	地理
8478	大正8年	夏の部	只一人雷雨を冒す夏野哉	夏野	地理
8479	大正8年	夏の部	夏野ゆきつくしぬ大河横はり	夏野	地理
8480	大正8年	夏の部	夏野ゆくや注ぎ遍き雨の中	夏野	地理
8481	大正8年	夏の部	夏野年々草に朽ちゆく招魂標	夏野	地理
8482	大正8年	夏の部	火の如く雨蒸れ騰る夏野哉	夏野	地理
8483	大正8年	夏の部	雲冥し夏野に隔つ海の音	夏野	地理
8484	大正8年	夏の部	暮歩々に草の香沈む夏野哉	夏野	地理
8485	大正8年	夏の部	奔馬避けて夏野に立つや風斜	夏野	地理
8487	大正8年	夏の部	蚊遣火の消えしがまゝや佛の灯	蚊遣	人事
8491	大正8年	夏の部	苺摘来て歸省の兄に分ちけり	苺	植物
8493	大正8年	夏の部	苺に汗零つ午や子待つらむ	苺	植物
8494	大正8年	夏の部	苺摘む童と見ゆれ日は斜	苺	植物
8495	大正8年	夏の部	露の葉をこぼれて苺水に在り	苺	植物
8496	大正8年	夏の部	悼亡の句作や苺盛りたるに	苺	植物
8497	大正8年	夏の部	人知らぬ苺に寄りつ閑古鳥	苺	植物
8498	大正8年	夏の部	深山路や苺たわゝに靄上る	苺	植物
8500	大正8年	夏の部	笠打敷けバ泪こぼれぬ苺	苺	植物
8501	大正8年	夏の部	苺嗜む賓人なれや草の宿	苺	植物
8502	大正8年	夏の部	誰をか怨む虫くひ苺弾きつゝ	苺	植物
8504	大正8年	夏の部	函打開くなみみる人の涼しげに	涼し	時候
8505	大正8年	夏の部	つゆけしやよべの蚊遣のあまり草	蚊遣	人事
8506	大正8年	夏の部	どさと置く蚊遣草夕山おろし	蚊遣	人事
8507	大正8年	夏の部	例年の南瓜棚花盛り也	南瓜の花	植物
8508	大正8年	夏の部	紙魚はたく姿を人に見られけり	紙魚	動物
8510	大正8年	夏の部	物々しく虎杖暑し館ノ下	暑さ	時候
8511	大正8年	夏の部	早魃の樹々騒がして朝嵐	旱	天文
8512	大正8年	夏の部	野人憩へるに青芒すく日哉	青芒	植物
8668	大正9年	夏の部	はつ蟬や雑木もる日の明るさに	蟬	動物
8669	大正9年	夏の部	鶯の老いて谷水湧きやまず	老鶯	動物
8670	大正9年	夏の部	五月雨の麻も蓬も屈む哉	五月雨	天文
8671	大正9年	夏の部	五月雨の漏りふたぐすべも無かりけり	五月雨	天文
8673	大正9年	夏の部	向上の一路を得たり山清水	清水	地理
8674	大正9年	夏の部	きそひ蕃る梢に近し夏の月	夏の月	天文
8675	大正9年	夏の部	寺山の蟬や即ち大般若	蟬	動物
8676	大正9年	夏の部	蟬近し水草しげる水の上	蟬	動物
8677	大正9年	夏の部	書卷山の如蟬鳴く庭浅し	蟬	動物
8678	大正9年	夏の部	蟬鳴くや鬱然として書樓の書	蟬	動物
8680	大正9年	夏の部	蟬涼し共に倚りそふ杉木立	蟬	動物
8681	大正9年	夏の部	蟬涼し一路直ちに山門へ	蟬	動物
8683	大正9年	夏の部	夏草に溢るゝとなし雨そゝぐ	夏草	植物
8684	大正9年	夏の部	晝顔や雨去てたまり水の澄む	晝顔	植物
8685	大正9年	夏の部	夕の花概ね白き夏野哉	夏野	地理
8686	大正9年	夏の部	濱草の名を問ふ旅の愁かな	雑	雑
8687	大正9年	夏の部	松間に崩れて白し土用浪	土用浪	地理
8688	大正9年	夏の部	汐虫も出て遊ぶ湖辺涼しきに	涼し	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8689	大正9年	夏の部	夙に起きて花を愛すや青簾	青簾	人事
8690	大正9年	夏の部	談笑朗かに聞ゆ青簾	青簾	人事
8691	大正9年	夏の部	海を見て客と帰りぬ青簾	青簾	人事
8692	大正9年	夏の部	江山の一幅古し青簾	青簾	人事
8693	大正9年	夏の部	汐鳴の幽かになりぬ青簾	青簾	人事
8694	大正9年	夏の部	小酒賣る庭浄めたり百日紅	百日紅	植物
8806	大正10年	夏の部	上人の飛錫杵かや閑古鳥	閑古鳥	動物
8807	大正10年	夏の部	心當てに泉尋ねん閑古鳥	閑古鳥	動物
8808	大正10年	夏の部	閑古鳥あからさまなり軒端山	閑古鳥	動物
8809	大正10年	夏の部	閑古啼くや深山薊の花の色	閑古鳥	動物
8810	大正10年	夏の部	山人の口訥なれや閑古鳥	閑古鳥	動物
8811	大正10年	夏の部	萬木の午睡る也閑古鳥	閑古鳥	動物
8812	大正10年	夏の部	閑古鳥風に吹かれて飛にけり	閑古鳥	動物
8813	大正10年	夏の部	採桑か狂女かあらず閑古鳥	閑古鳥	動物
8814	大正10年	夏の部	雲の冷え艸木に垂れつ閑古鳥	閑古鳥	動物
8815	大正10年	夏の部	山の僧が例の悪詩や閑古鳥	閑古鳥	動物
8817	大正10年	夏の部	稀に見るつゝじ爛れつ酒の酔	躑躅	植物
8818	大正10年	夏の部	咲き残るつゝじを尋ねありきけり	躑躅	植物
8819	大正10年	夏の部	崇山や五月の會の人少な	五月	時候
8820	大正10年	夏の部	鋤鋤禾の處を得たり雑煮くふ	雑煮	人事
8821	大正10年	夏の部	麦秋や枇杷の樹下の讀書人	麦の秋	時候
8822	大正10年	夏の部	麦秋に僧を招じてひそかなる	麦の秋	時候
8823	大正10年	夏の部	麦秋の日黄也大戦の後	麦の秋	時候
8824	大正10年	夏の部	麦秋を出生又も女の子	麦の秋	時候
8825	大正10年	夏の部	一方の雲の爛れや麦の秋	麦の秋	時候
8826	大正10年	夏の部	麦秋の黎明はやも立咄	麦の秋	時候
8827	大正10年	夏の部	麦秋や我等寄進の鐘が鳴る	麦の秋	時候
8828	大正10年	夏の部	細道や閑の清水の麦埃	麦の秋	時候
8829	大正10年	夏の部	崇山を望む麦秋の事終へて	麦の秋	時候
8830	大正10年	夏の部	眼前に祭迫りぬ麦埃	麦の秋	時候
8831	大正10年	夏の部	晝顔や何に依々たる日今人	日傘	人事
8832	大正10年	夏の部	立寄れば日今を透す蝉しぐれ	日傘	人事
8833	大正10年	夏の部	日今置けば毛虫這よる草の上	日傘	人事
8834	大正10年	夏の部	梅黄む家の子供の日今かな	日傘	人事
8835	大正10年	夏の部	雨上りの日今眩ゆし蝸牛	日傘	人事
8836	大正10年	夏の部	祇王寺を離るゝ日今一ツ哉	日傘	人事
8837	大正10年	夏の部	日今たゝみ水際に顔を並べけり	日傘	人事
8838	大正10年	夏の部	青空のいや遠々し日今人	日傘	人事
8839	大正10年	夏の部	露畠の大露見居り日今人	日傘	人事
8840	大正10年	夏の部	草の丈舊蹟なれば日今人	日傘	人事
8841	大正10年	夏の部	六月の草木照合ふ日今哉	日傘	人事
8842	大正10年	夏の部	少女ぶり日今の色の濃かに	日傘	人事
8843	大正10年	夏の部	象潟の森の松かげ日今見ゆ	日傘	人事
8844	大正10年	夏の部	紺碧の湖に泛べる日今哉	日傘	人事
8846	大正10年	夏の部	人の子や薫れと祈る蚊遣草	蚊遣	人事
8847	大正10年	夏の部	名所の鹿の子近寄る日今哉	日傘	人事
8987	大正11年	夏の部	初幟己れ生れて重右エ門	幟	人事
8989	大正11年	夏の部	青梅の枝さし伸べし書齋哉	梅の實	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8990	大正11年	夏の部	松落葉つもりて久し松の色	松落葉	植物
8992	大正11年	夏の部	湖濶けたり一むら葦の若葉より	葦若葉	植物
8993	大正11年	夏の部	文晁居の主人と知りて行々子	行々子	動物
8995	大正11年	夏の部	牡丹見て一詩を成さず酒の悔	牡丹	植物
8997	大正11年	夏の部	繩墨の痕鮮かに風薫る	薫風	天文
8998	大正11年	夏の部	青梅や眞晝啼去る杜宇	梅の實	植物
8999	大正11年	夏の部	青梅の枝葉もる日や美少年	梅の實	植物
9000	大正11年	夏の部	青梅や霽るゝ慣ひの雲の峰	梅の實	植物
9001	大正11年	夏の部	青梅や日に / \ 雲の峰づくり	梅の實	植物
9002	大正11年	夏の部	青梅や客の驚く流れ水	梅の實	植物
9003	大正11年	夏の部	人の子ハ着飾り來梅黄む頃	梅の實	植物
9004	大正11年	夏の部	青梅に着飾りありく人の子よ	梅の實	植物
9005	大正11年	夏の部	青梅の林に入りぬ輕き汗	梅の實	植物
9006	大正11年	夏の部	青梅や長男臥病家に在り	梅の實	植物
9007	大正11年	夏の部	青梅の古幹かくす草の丈	梅の實	植物
9008	大正11年	夏の部	青梅をゆさぶり去りぬ朝嵐	梅の實	植物
9012	大正11年	夏の部	二十年家郷を出でず花茨	茨の花	植物
9013	大正11年	夏の部	思寝の蝸に目覚めて夢暗し	蚊帳	人事
9014	大正11年	夏の部	桑の実に稚き頃の面ざしも	桑の實	植物
9016	大正11年	夏の部	遠く之を望む一木の茂り哉	茂り	植物
9020	大正11年	夏の部	うろくづと生れ変らば涼しかる	涼し	時候
9021	大正11年	夏の部	雨乞の験もなしに明易き	短夜	時候
9022	大正11年	夏の部	明易き樹や海鳥の假宿り	短夜	時候
9023	大正11年	夏の部	短夜や既に根つきし物の苗	短夜	時候
9024	大正11年	夏の部	短夜をなど燕雀のかしましき	短夜	時候
9025	大正11年	夏の部	短夜や磯の祭の朝篝	短夜	時候
9026	大正11年	夏の部	明易き耳を貫く矢聲哉	短夜	時候
9027	大正11年	夏の部	妻が炊ぐ一日の糧や明易き	短夜	時候
9028	大正11年	夏の部	問答は了る青山明易き	短夜	時候
9029	大正11年	夏の部	短夜や虫の骸のさながらに	短夜	時候
9031	大正11年	夏の部	灯籠を見るものにせん浅き庭	燈籠	人事
9032	大正11年	夏の部	唐黍の間ひに低し雲の峰	雲の峰	天文
9033	大正11年	夏の部	赤鬼のよち登る見ゆ雲の峰	雲の峰	天文
9034	大正11年	夏の部	雲の峰暮れて稻妻起りけり	雲の峰	天文
9035	大正11年	夏の部	雲の峰顔れかゝりし伏家哉	雲の峰	天文
9036	大正11年	夏の部	雲の峰をよそに麻引き進むかな	雲の峰	天文
9037	大正11年	夏の部	諸子百家文庫の窓の雲の峰	雲の峰	天文
9038	大正11年	夏の部	登山衆の後ろに聳ゆ雲の峰	雲の峰	天文
9039	大正11年	夏の部	草臥れて行手に遠し雲の峰	雲の峰	天文
9040	大正11年	夏の部	東京の方に当りて雲の峰	雲の峰	天文
9041	大正11年	夏の部	雲の峰崩れて消えて星一ツ	雲の峰	天文